

PRAEVIDENTIA DAILY (8月6日)

昨日までの世界：ロシアと欧米の軍事衝突リスクの高まり

4日は、先週後半から大幅下落が続いていた米株価が持ち直しを見せたことから、主要通貨の中では豪ドル、NZドル、カナダドルなどの通貨が上昇した。豪ドルについては、豪小売売上高が前月比+0.6%と市場予想を大きく上回ったことも下支え要因となった。ポンドも、英建設業 PMI の予想比小幅上振れ（62.6、但し前月からは悪化）後の上昇は小さかったが、NY 時間の米株価上昇を受けた米ドル安の影響を強く受けて、対ドルでの反発が大きかった。他方、ユーロは、週末3日にポルトガル政府が資金繰り不安が広がっていたエスピリト・サント銀行の救済に乗り出したが、欧州株価やユーロは殆ど反発しなかった。この間、ドル/円相場は、米株高にも拘らず米長期債利回りが低下したことから、102 円台半ばで弱含みで推移した。

5日は、Putin ロシア大統領が欧米の制裁に対する報復措置をロシア政府に命じたことから、投資家のリスク回避的傾向が強まり、米株価の下落と共に**ブラジルレアル、トルコリラや南アランドといった新興国通貨**が全般的に大幅下落したほか、主要国でも NZ ドル、豪ドル、カナダドルなどが下落、米ドルが相対的に堅調な展開となった。この間、**ポンド**は全般的なリスクオフ、米ドル高傾向の中でも対米ドルで上昇しており、ポジション調整が終了した可能性が示唆されている。

豪州関連材料では、豪貿易赤字が-16.83 億豪ドルと予想比縮小したほか、RBA 理事会後の声明文で、豪ドル高牽制や中立的な金融政策スタンスは変更されなかったものの、インフレに関して最近の上昇が指摘されたことからタカ派と受け止められ、豪ドルが強含む局面があった。もっとも、米株安とリスクオフの影響の方が大きかったほか、中国 HSBC サービス業 PMI が 50.0 と、景気拡大と後退の分かれ目である 50 へ悪化したことも、あまりいい材料ではない。

ドル/円相場は米 ISM 非製造業景況指数が 58.7 と前月および市場予想を大きく上回ったことから、米長期債利回りの上昇と共に一時 102.93 円へ上昇する局面もみられた。雇用指数も前月の 54.4 から 56.0 へ改善した。もっとも、その後のロシア関連材料を受けて米長期債利回りが反落したことから、ドル/円も結局 102 円台半ばへ反落、103 円乗せに再び失敗し、前日比では横ばい圏内の動きとなった。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	+0.0	+0.00	-0.00	-0.00	+0.01	+0.00	-0.01	-1.0	-1.0	-0.9	-0.5
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	-0.3	+0.00	+0.00	-0.00	+0.03	+0.03	+0.00	-0.1	-1.0	-0.5	+0.02
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	+0.1	+0.03	+0.02	-0.00	+0.04	+0.04	+0.00	+0.1	-1.0		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	-0.3	-0.02	-0.02	-0.00	-0.03	-0.03	+0.00	-1.0	-0.2	-0.6	
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	-0.7	+0.01	+0.01	-0.00	-0.01	-0.01	+0.00	-1.0	-0.2	-0.6	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	+0.5	-0.01	-0.00	+0.01	+0.00	+0.00	+0.00	-1.0	-0.9	-0.6	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

きょうの高慢な偏見：ポンド調整一服の兆し

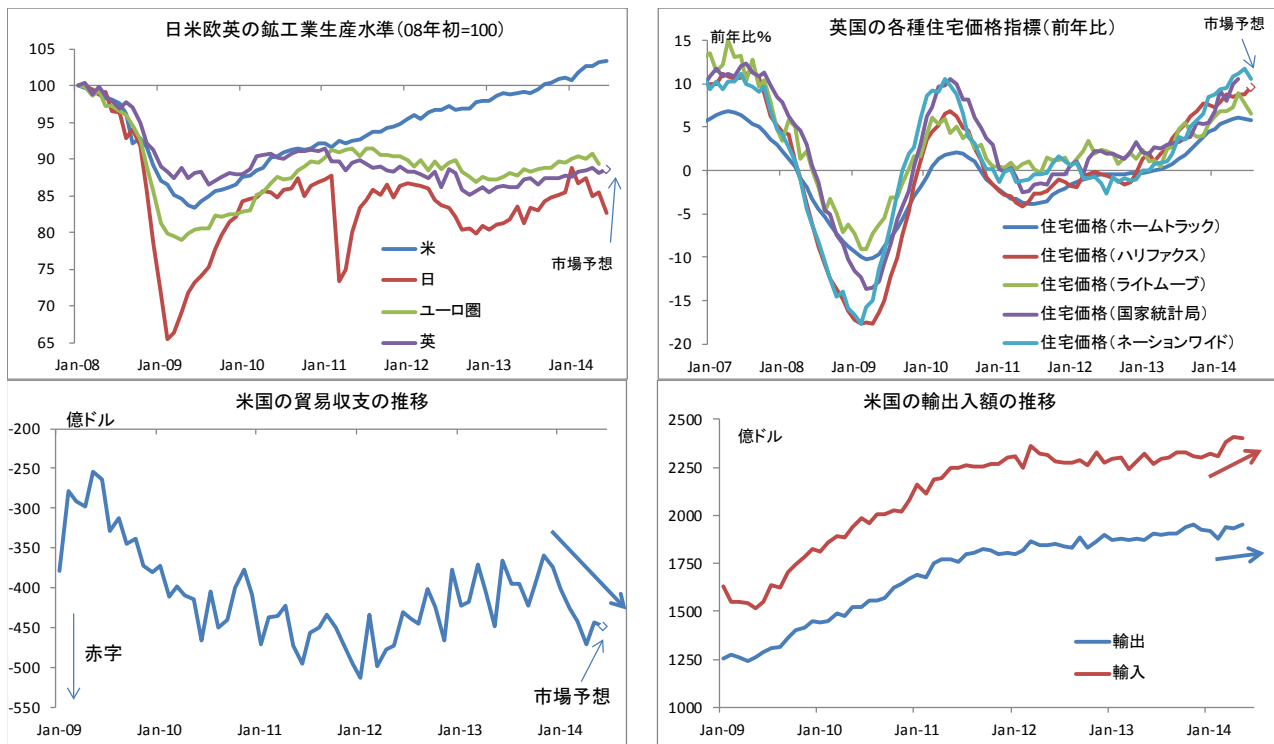
きょうの注目通貨：GBP↑、USD↓

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
NZ2Q 失業率	7:45	6.0%	5.8%	
英7月ハリファクス住宅価格3か月前年比	16:00	+8.8%	+9.6%	
スイス7月CPI前年比	16:15	0.0%	0.0%	
英6月鉱工業生産・前月比	17:30	-0.7%	+0.6%	
カナダ6月国際商品貿易・加ドル	21:30	-1.5億	0.0億	
米6月貿易収支	21:30	-444億\$	-448億\$	

(出所) プレビデンティア・ストラテジー作成

本日は最重要経済指標の発表はないが、中では**英鉱工業生産**と**米貿易収支**が注目される。英国経済は非製造業主導の面が強いことから、サービス業、建設業PMIや住宅関連指標がより重要だが、鉱工業生産は一国のGDPの全般的な方向性との連動性が強いことから注目度は低くなっていない。今回は、前月の大幅マイナスの反動増が予想されているが、通常、大きな前月比の変動の翌月の反発は、コンセンサス予想では過小評価される傾向が強い、このため今回も、反動増が予想を上回るリスクがあり、その場合にここ数日ようやく持ち直してきたポンドの追加的な押し上げ要因となるだろう(下図を参照)。また住宅価格についても、ネーションワイドやライトムーブなど一部の住宅価格指標でピークアウトがみられてきているが、本日発表のハリファクスが予想通り前年比伸び率拡大を示すと、早期利上げ開始の必要性に関する期待を強め、ポンド高材料だ。

米貿易収支は、そもそも長期的視点では米国内のシェールガス・オイル産出の増加を受けて輸入が減少・輸出が増加し貿易収支が改善(赤字が縮小、黒字化)するという認識(シェール革命)を持っている投資家が多い。それにも拘らず、実際の貿易収支は今年に入り悪化傾向が続いており、今回も赤字の再拡大が予想されている(下図を参照)。輸出よりも輸入増加のペースが若干速いため、輸入大国である米国の輸入好調は米国経済および世界経済にとっても悪い材料ではないが、赤字拡大を上回る対米資金流入が確保されない場合、赤字そのものは米ドルにとっては悪材料だ。このため、貿易赤字拡大傾向の確認は、シェール革命からくる収支改善期待の後退もあって、ドル安圧力となるだろう。ドル/円は引き続きレンジだが、ウクライナ・ロシア情勢の更なる悪化も、102円台前半への軟化リスクとなる。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいますようお願い申し上げます。

当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社

金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号

一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641